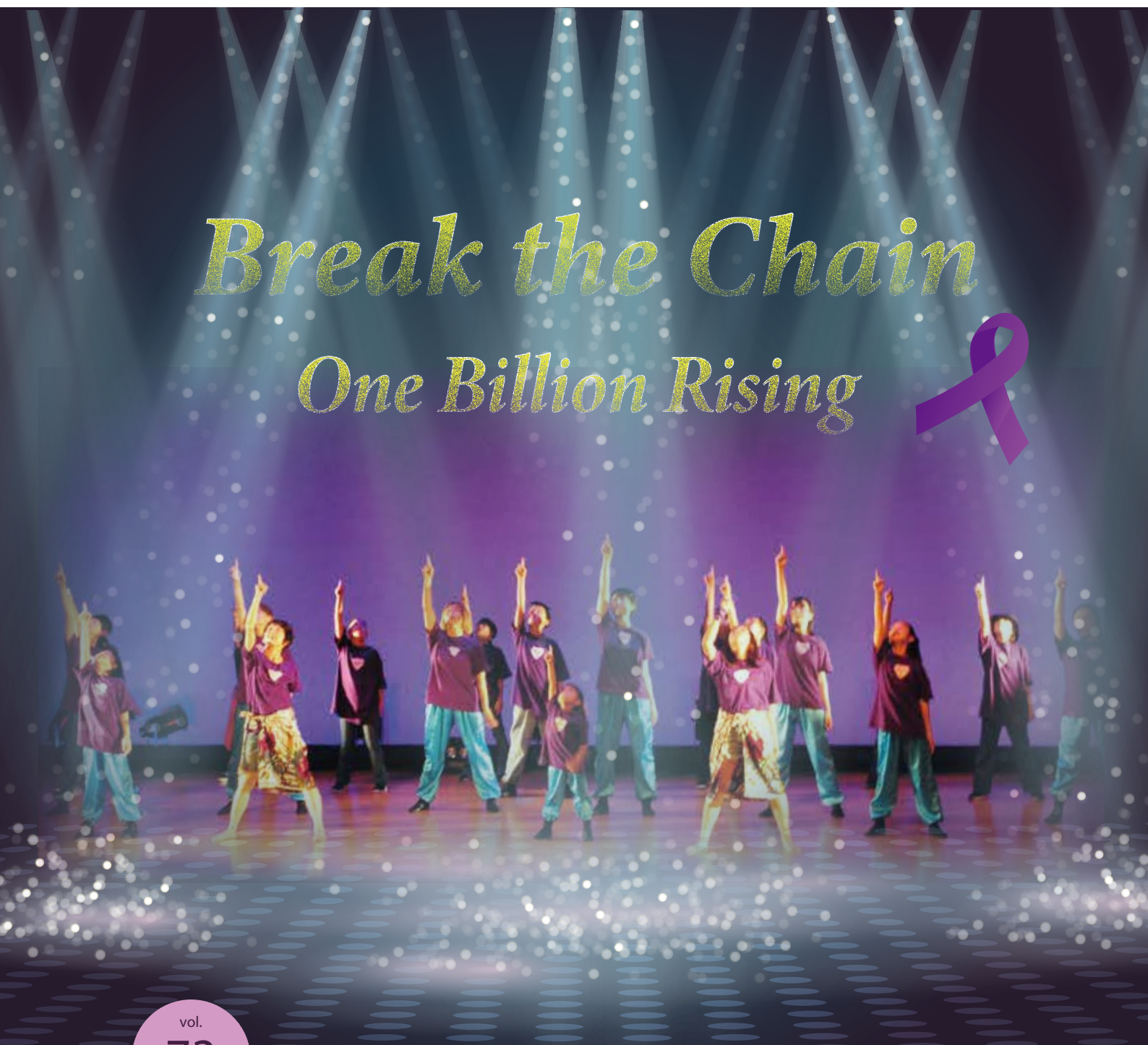


無料

すくらむ

かわさきの男女共同参画情報誌

Break the Chain One Billion Rising



vol.

73

2022.11

<https://www.scrum21.or.jp/>

女性に対する
暴力の鎖を断ち切ろう

女性に対する暴力の鎖を断ち切ろう



毎年11月25日は「女性に対する暴力撤廃の国際デー」です。11月12日から25日までの2週間は「女性に対する暴力をなくす運動」期間として様々な活動が行われています。配偶者やパートナーからの暴力、性暴力・性犯罪、セクシュアルハラスメント等は女性に対する暴力であり、許されない行為であるという社会意識の更なる醸成や、暴力の被害に遭っている人が相談窓口等必要な情報を得ることができ、安心して相談できるようにすることが求められています。

すくらむ21では、この趣旨に賛同し、年間を通じて女性に対する暴力防止に向けた様々な取り組みを実施しています。今号では、6月26日(日)「すくらむ21まつり」で実施した「Break the Chain ダンス」と、9月8日(木)・9日(金)の2日間で実施したインターンシップ生対象の「デートDVファシリテーター養成講座」の様子をお届けします。



川崎市男女平等推進週間に合わせて6月26日(日)に第18回すくらむ21まつりを開催しました。今年度は、すくらむ21主催のホールイベントとして、世界各地で踊られている女性への暴力防止啓発ダンス「Break the Chain」(以下、BTC)を「女性に対する暴力をなくす運動」のシンボルマークであるパープルリボンにかけて、パープルリボンダンスとして地域の団体に踊っていただく企画を行いました。

キックオフとして、参加を希望する団体に向けた説明会を2月23日(水)に開催しました。当日は、2016年から事業にBTCダンスを取り入れている静岡市女性会館アイセ

ル21のスタッフにもお越しいただき、BTCダンスを取り入れるようになったきっかけや実際の活動についてお話を伺いました。地域の高校生や大学生など若い世代を巻き込みながら、BTCダンスが静岡で広がっている様子が印象的でした。

今回の取り組みは、BTCダンスを踊ることで「暴力被害のサバイバーが、自分の身体や感情は自分のものだ実感する」「暴力は許さないという意思を示す」「踊りを見た人にも、コロナ禍を乗り越えていく力を与える」「イベント等が中止となり、踊る機会が減ったダンサーたちの表現の場とする」ことを目的としています。



Break the Chain ダンスとは…

女性の権利向上を求めて 10 億人に立ち上がろうと呼びかける One Billion Rising 運動の一環として、世界各地で踊られている、女性への暴力防止キャンペーンのテーマダンスです。

One Billion Rising とは、女性に対する暴力を終わらせることを目指した世界的なキャンペーンとして 2012 年から始まりました。この世界の 3 人に 1 人の女性が、殴ら

れたり、性暴力を受けるなど生涯で暴力を受ける経験があるという統計から、世界の人口が 70 億人となると、10 億人の女性や少女たちが被害を受けていることになります。ダンスを通じて、喜びを表現したり、暴力に屈していないことを讃えるために、このキャンペーンは始まりました。日本でもさまざまな場所で Break the Chain ダンスが踊られています。

参考サイト) 「What is One Billion rising?」 (<https://www.onebillionrising.org/about/campaign/one-billion-rising/>)

参考動画) 「BREAK THE CHAIN」 (<https://www.youtube.com/watch?v=fL5N8rSy4CU>)

すくらむ 21 まつり当日はダンススペース DD、みるき〜うえい、M's チアダンス、フィールダンスクラブの 4 団体が企画の趣旨に賛同し、参加してくださいました。まず、それぞれの団体より自由に考えてもらった振り付けで BTC ダンスを発表してもらいました。Break the Chain のメッセージを伝えようという想いがそれぞれの

ダンスから伝わってきました。最後には、代表者ダンスとして、出演した 4 団地で作り上げた BTC ダンスの発表もありました。コロナ禍で久しぶりに観客を迎えてのすくらむ 21 まつりホール企画でした。多くの人にとって、暴力の問題や暴力の連鎖を断ち切るにはどうしたらいいのか、考えるきっかけになっていることを願っています。

BTC ダンスに協力して下さった 2 つの団体さん(ダンススペース DD、みるき〜うえい)に会いに、二子新地にあるダンススペース DD さんのスタジオにお邪魔しました。



Message

DanceSpaceDD 代表 藤田陽子さんより

ダンススペース DD では、BTC ダンスの振付を 6 名のインストラクターで行いました。

それぞれダンスのジャンルも個性も違うので、同じ曲でもパート毎に全く違う振付になりました。また、小学生低学年が踊る時と高学年や中学生が踊る時でも違う雰囲気になっています。

BTC ダンスの動画を皆で鑑賞し暴力防止の曲とい

うことは伝えましたが、メッセージ性が強い曲だったので、ダンスはあまり歌詞に囚われず自由に振付を行いました。

代表者ダンスの振り付けを担当させていただきましたが、歌が得意な団体やダンスが得意な団体、またお話しが作れる団体など様々な団体があるので、いつか市民ミュージカルのようなものを一緒に作れたら楽しいと思っています。

2月にすくらむ21で開催したBTCダンスの説明会に参加、そして、すくらむ21まつりの舞台で本番を迎えるまでの4か月間を振り返って

Message

劇団みるき〜うえい 代表 内村かおりさんより

BTCダンスイベント参加において考えたことは「暴力について理解しているようで、していないのではないか？」と自分に問いかけからスタートしました。

女性への暴力がテーマだが、息子を持つ母として、また子どもから大人まで一緒に活動している団体として、暴力という社会問題をしっかりと考えていきたいと思いました。また次の世代に残すべきものではない問題という意識を強く感じ、沢山の子ども達に暴力をなくしていこう！という気持ちを伝えるために参加を決めました。

オリジナルダンスを踊る上で、子どもを含めたメンバー全員で「身近にある自分が感じる暴力ではないか？と思うこと」について話し合い、身近な問題として捉える意識を持ちました。また見ている方々に、何を感じ考えてほしいかをそれぞれ思い描き、意識しながら稽古を進めていきました。

作品の構成を考える上では、私どもはダンサーで

はなく、役者として普段活動しているので、音楽に合わせて物語として表現する方法を選択しました。子ども達の素直さ、無邪気さを表現した踊りから始まり、2曲目では子どもの頃の気持ちを忘れた男性が、女性たちを傷付け、女性達はそれに耐え、その修羅場から抜け出そうとする姿を表現。3曲目では純真な心を持った人々が傷付いた女性たちと暴力を振るった男性たちを優しくと希望を持つ世界へ導いて行く物語を表現させてもらいました。

参加して感じたことは、セリフや歌のないことでの表現の難しさを感じました。でも年齢差あるメンバーでの参加は、とても楽しくお互いに大きな刺激があり、年齢・性別を越え「暴力をなくしていく」というテーマに向かって進んだ時間は、かけがえのないものになりました。自分達が出来る小さな優しさや勇気を表に表現することが暴力をなくす第一歩だと思いこれからも活動していきたいと思っています。



相談窓口のご紹介

女性のための総合相談

電話
相談

☎ 044-811-8600 (ハローウィメンズ110番)

月～木曜 10:00～15:00

金曜 15:00～20:00

日曜 12:00～17:00

※土・祝日及び年末年始はお休み

※相談は無料ですが通話料がかかります



面接
相談

電話相談のあと、必要に応じてすくらむ21の女性相談員が相談をお受けします。(予約制・無料)

法律
相談

法律に関するご本人の問題について女性弁護士が相談をお受けします。(予約制・無料)

偶数月：第1日曜・第3木曜 13:15～15:45

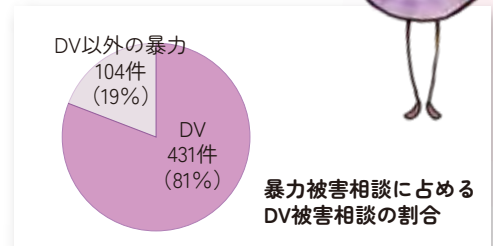
奇数月：第1・3木曜 13:15～15:45

DVなどの暴力は身近な問題 一人で悩まないで



すくらむ21では「女性のための総合相談」を実施しています。

2022年4月1日から9月30日の間、「女性のための総合相談」に寄せられた相談のべ件数は1,241件でした。そのうち、「暴力被害」相談件数は535件と過去最多。その約8割に及ぶ431件が「DV被害」を受け困難な状況にある女性当事者からのご相談でした。



例えばこのような相談をお受けしています

(Aさん 40代・女性・パート)

中学に入った子どもが塾に行きたいと言いはじめました。夫に相談することを考えるだけで緊張して苦しかったです。勇気を出して夫に相談、塾代のことも伝えました。夫は機嫌よく「行かせてやれよ」と、そのときは良かったのですが…。塾代を出してくれたのは最初の1か月だけ。家計が苦しいという「お前のやりくりが下手だからだろ」「俺の収入に不満か、謝れ」と、

子どもに聞こえる大声で怒鳴られ、深夜まで説教。私もパートを増やして働きたいですが、毎日、家事のことでグメ出しされているので、パートを理由に家事がろそかになって非難されるのが怖くて…。何をやっても器用にできない私が悪いのですが、最近、突然涙が出て、自分が自分でないみたいです。

※いくつかの相談を組み合わせて加工しています。相談された内容が外に漏れることはありません。

相談室より メッセージ

相談室には夫・パートナーとの関係に関連した内容の相談が日々入ってきます。このケースのように、いちど二人で決めたことが相手の機嫌だけで無かったことになる。収入があるのに相手を経済的に締めつける。言葉や態度で脅して責める。子どもの前で罵倒する。家事役割を押しつけて思い通りにできないと厳しく非難するなど、複数の暴力が複雑に絡み合い追いつめられるケースが多数です。

DV(ドメスティック・バイオレンス)は、一方の「力や権力」という優位性を利用して暴力をふるうことで、弱い立場の相手を「支配」する行為です。自分の身に起きていることがDVと気づかず、自分を責めて消耗し、心身に影響が出ている方も少なくありません。

あなたは何も悪くありません。勇気を出して相談をしてくださった方の中には、いろいろな情報を得て自分らしさを取り戻していかれる方がたくさんいらっしゃいます。ひとりで抱えずにご相談ください。

同じ仲間が集まって、気持ちを語り合える居場所もあります。

パートナーとの関係で
悩む女性のための居場所

「ひだまりスポット」

対象：夫・恋人などパートナーとの関係で悩んでいる女性
(市内在住・在勤・在学者)

開催日：12月11日(日)「お金の悩み」

1月8日(日)「子どもへの影響」

2月19日(日)「私を大切にするコミュニケーション」

時間：すべて13:00~15:00

問合先：川崎男女共同参画センター(すくらむ21)

☎ 044-813-0808

自助グループ「ピアグループ星さん」

内容：DV・モラルハラスメント

対象：DV・デートDV・モラルハラスメント等、傷つき体験のある女性

問合先：ハロー・ウィメンズ110番

☎ 044-811-8600

※日時・実施場所は電話でお問合せください。

すくらむ 21 では、大学の夏期休業期間に合わせて川崎市内外からインターンシップ生の受け入れを行っており、男女共同参画の視点から身近にある課題を知ることや自分を見つめ未来につなげるキャリアデザインの機会として提供しています。

その中で9月8日(木)・9日(金)に「デートDV防止プログラムファシリテーター養成講座」を世田谷区立男女共同参画センター・らぶらす※との共同で実施しました。

※世田谷区立男女共同参画センター・らぶらすは、すくらむ 21 の指定管理者である社会福祉法人共生会 SHOWA が世田谷区の委託を受けて管理運営しています。

まだまだ暑さの厳しい9月上旬、すくらむ21のインターンシップ生18名と一緒に東京都世田谷区三軒茶屋にある世田谷区立男女共同参画センター・らぶらすにお邪魔しました。らぶらすでも4名の大学生がインターンシップ研修をしており、一緒に「デートDV防止プログラムファシリテーター養成講座」を受講しました。

デートDVとは、交際相手に対する暴力のことで、「殴る・たたく・蹴る」「髪を引っ張る」という身体的な暴力だけでなく、「大声で怒鳴る・バカにする」「行動を監視・制限する」などの精神的な暴力、「デート費用を全く払わない」「仕事を辞めさせる」などの経済的な暴力、「性行為を強要する」「嫌がっているのに裸などを撮影する」などの性的な暴力など、さまざまな種類があります。

デートDV防止プログラムでは、中高生を対象にデートDVの概念や起こる理由、回避する方法、被害・加害をなくすために対等な人間関係を築く必要性を伝えています。今回の養成講座でも、まずデートDVとは何か、暴力の種類、女性に対する暴力の現状についてのお話がありました。最近では前述の暴力の4種類だけでなく、「GPSで監視する」「LINEなど自分以外の連絡先を消去させる」「画像などをインター

ネット上にばら撒く」など、デジタル暴力と呼ばれるものもあることを学びました。その後は、実際にらぶらすが実施している中高生向けのデートDV防止プログラムをみんなで体験しました。インターンシップ生からは、「初めてデートDVについて学び、暴力の種類やその複雑さに驚いた」「中高生には恋愛や人間関係などはまだ少し複雑で難しいと思う人もいるかもしれないけれど、自分自身や周りにも起こりうることだと理解してもらいたい。このプログラムを受けることで考えるきっかけにしてもらいたい。」「デートDVを未然に防ぐためにも中高生にはぜひこのプログラムを受けてほしい」という感想がありました。

2日目は、「自分の気持ちを伝えるコミュニケーションスキル」として、アサーティブについて学びました。アサーティブとは、「相手を攻撃することではなく、一方的に自分の意見を主張することでもなく、相手も自分も「OK」というゴールを目指すコミュニケーションのことです。ロールプレイとして、「恋人から自分以外の連絡先を消してほしいと言われたら、どんな言葉で気持ちを伝えるか」をグループで考え、活発な話し合いができました。相手の気持ちや意見を尊重し

デートDVという単語自体は認識していたものの、自分自身や周囲で被害を受けた、加害者になってしまったという話を聞いたことがなかったため、イメージしづらいと感じていました。しかし、人から見えやすい身体的な暴力に限らないことを知り、自分が気づいていないだけで自分の周囲でもデートDVが起こっている可能性に気づかされました。デートDVと言う単語を知っているだけでなく、その内容を知っていないと、自分が行っている行為、自分がされている行為がデートDVであるとの認識を持つことがすらいけないと思います。だからこそ、中高生に対してデートDV防止プログラムを受けてもらいたいです。

インターンシッ

この講座を受けて、自分の友達がデートDVの被害にあっていて、その相談に実は自分が乗っていたことに気がつきました。相談された時は友達が被害者だなんて思ってもいなかったし、カップル内ではよくあることなのでは、と思っていました。しかし、相談してくれた友達がデートDV被害者であることに今回気づき、もっと早くデートDVについて知っていたら、より親身になって相談に乗ってあげたり、アドバイスしてあげられたのかなと後悔しました。また、身近にデートDVなんて聞いたことがない、いないだろうと勝手に思い込んでいましたが、デートDVの存在が身近になりました。



ながらも、自分の気持ちや意見を尊重し、誠実に、素直に表現するというアサーティブコミュニケーションの考え方が響いたようでした。最後に、同じグループのメンバーに対して、“自分が見つけたあなたのいいところ”をメッセージにして贈り合いました。自分ではマイナスに思っていたところを良

いところだと褒めてもらえたり、これまで気づいていなかった新しい自分の良さを発見できたり、互いにエンパワーメントし合う時間になったようでした。インターンシップ生にとってたくさんの学びと気づきのある2日間になりました。

参考) 内閣府男女共同参画局「女性に対する暴力の根絶」 https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html

海原純子「誰でもできる！アサーティブトレーニングガイドブック みんなが笑顔になるために」(2019年)金剛出版

自分や周りの人が暴力を受けているかもしれない、と思ったら

▼ すくらむ21の相談窓口

男性のための電話相談

あなたの悩みを男性相談員がお聞きます。
(秘密厳守・匿名)

☎ 044-814-1080

毎週水曜日 18:00~21:00

※祝日及び年末年始はお休みです。

※相談は無料ですが通話料がかかります。



▼ 国や自治体の相談窓口

DV相談ナビ

☎ #8008

DV相談+(プラス)

☎ 0120-279-889

メール相談・チャット相談も受け付けています

性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター

☎ #8891

プ生からの感想

中学生時代に親友からデートDVの被害にあっているという相談を受けたことがあります。当時はデートDVという言葉自体知らなかったし、相談先があることや学校への出前講座の存在も知りませんでした。講座を受ける中であの時の自分は優しい言葉をかけられていたか、親友の意見を否定していなかったか、当時を思い出していました。もし、中学生時代にこの講座を受講できていたらもっと親友を支えられていたのではないかと思います。悔しいです。そのため、世田谷区や川崎市だけではなく全国の中学校にデートDVについての知識が広まってほしいし、私も身近なところからデートDVについて啓発していきたいと思いました。

相手を尊重すると同時に自分のことも尊重することが大事だという言葉が心に響きました。「尊重」という言葉からは、相手を優先して相手のために動くこととイメージしてしまいがちですが、まずは自分を大事にすることが大切。自分を守る、自分の意見も言う、逆に意見を言わなかったことも自分の選択だとして認める。どれも日々の生活の中で忘れてしまいがちなことですが、自分を尊重することは常に心にためておきたいと思います。

女性の視点で考える防災の知恵袋

22

いろんな視点で、取り組みを豊かに



前回のコラムは、「防災に取り組んでいる人は、男性が多い」というお話で終わりました。読んでくださった方から、「うちの町会も、そうなのよ〜!」とご感想をいただきましたが、みなさんの周りはいかがでしょう。先日、市内の掲示板に某町内会の組織表が貼ってあったのですが、会長さんら三役はもちろんのこと、班長さんなど約20名のうち、女性と思われるお名前は1〜2名でした。川崎市の町内会でも、まだまだ「長」がつく職は男性が担うことが多いようです。防災でも同様で、自主防災会といった防災組織では、やはり男性が活動の中心になっています。その結果、地域での防災活動や災害時の支援で、いろいろと問題が出てきます。

地域で行われる防災訓練にお邪魔していると、「お母さん達は、炊き出しをお願いしますー」という声が聞こえてくるのがよくあります。「炊き出しは、普段から料理に慣れている女性達にお願いしよう」ということだと思うのですが、普段の家族分のご飯と大人数の炊き出しでは規模も段取りも違ってきます。「女性は炊事・洗濯・掃除、男性は取り仕切りや力仕事」と性別で役割が決められてしまうことがありますが、料理が得意な男性もいれば、リーダーシップを発揮するのが得意な女性もいますよね。災害時は避難所を運営する住民も利用する住民も、被災者です。被災状況も様々な中、性別で役割を決めず、一部の人だけに負担が偏らないようにローテーションを組むことも、普段の防災訓練等で考え準備していただけたらと思います。

役所の中を見ても、防災担当部署には女性が少な

い状況です。一般行政職員の男女比はおよそ「7:3」なのですが、今年5月に内閣府が発表したデータによると、全国1741自治体のうち約62%の自治体で、防災担当部署に女性職員が1人もいないのだそうです。今年度、川崎市では危機管理部門の女性職員が2名から6名に増員されました。全国的に見て、女性が6名配属されているというのは「かなり多い」ということになりますが、それでもまだ一般行政職員の男女比「7:3」にはたどり着きません。人口の約半分は女性なので、理想を言えば、防災に関わる人の半分は女性であって欲しいところです。

こんな話をすると、「女性に、夜間や突発的な災害対応をさせるのは可哀そうじゃないか」「女性は子育てや介護があるから、防災はできない」と言われたりします。子育てや介護を担っている女性はもちろん多いですが、今は男性も子育てや介護をしています。子育てをしている人であれば被災した子育て世代にどんな支援が必要かよくわかると思いますし、介護をしている人であれば支援者としてどんな支援が欲しいかわかると思います。いろんなバックグラウンドを持った人が防災に取り組んでくださることで、災害時の支援についてより幅広く考え、豊かな取り組みを進めていくことができるのではないのでしょうか。

建設コンサルタント(日本ミクニヤ株式会社)勤務
(一社)福祉防災コミュニティ協会 事務局兼務

防災士 上園 智美

実話に基づくストーリーでLGBTQ+やフェミニズムについて分かりやすく紹介している『パレットーク』の副編集長である伊藤まりさんより、若い世代は何に関心があって何を考えているのか、若い世代のおみとりとして、コラムにて届けていただきます。

私の身体の意味は、私が決める

26 すくらむコラム

今年の8月、音楽フェスティバル「サマーソニック2022」が3年ぶりに開催されました。コロナの感染拡大以降、音楽ファンにとっては待ちに待った、そして私にとっては人生で初めて参加するロックフェスティバルでした。数々の素晴らしいパフォーマンスが繰り広げられていたのですが、実はそのなかで、物議を醸す出来事が起こりました。

とある日本人アーティストがステージ上で、彼らの1つ前に演奏したイタリア出身アーティストの女性ベーシストを茶化すパフォーマンスを行ったのです。その女性ベーシストはライブ中にトップレス（ニップレス）姿で演奏することが多く、今回のサマーソニでも、彼女は胸に黒いテープを貼って演奏を行いました。このパフォーマンスのスタイルには、「女性の身体に勝手に性的な意味付けをし、消費する文化への抵抗」の意味が込められています。

しかし、そうしたフェミニズムの文脈や想いが理解されないまま「"エロい"格好をして演奏する女性を別のバンドの男性アーティストが真似する」という形で、笑いのネタにされてしまったのです。実際、多くの観客はこのパフォーマンスを受けて笑っていましたが、同時に多くの批判をSNS上で集めることとなりました。

今回の出来事に限らず、世の中にはまだまだ女性の身体、またはその一部が「性的なモノ」と勝手に意味づけをされ、茶化され、タブー視される場面は多く残っています。

もちろん、胸などのプライベートパーツを露出することが適切ではない場面はジェンダー問わず存在します。しかし同時に、「男性であれば胸の露出が許される

けれど、女性だけが許されない」場面が存在することも事実です。

実際に露出をするかしないかに関わらず、女性の身体の一部が勝手に「性的である」という意味付けがされているのです。

- ・露出の多い格好はセックスへの同意だ
- ・公共の場で授乳するのは、ふしだら／恥ずかしいこと
- ・胸の大きな女性は、エロい

こうした風潮が当たり前とされるなかで、性暴力の被害者に対して「そんな格好をしていたから」と被害者を責める二次加害（ヴィクティム・ブレイミング）も起きてしまうことも大きな問題です。

本来であれば、誰もが自分自身の身体を「いつ／どこで／誰に対して、性的であるか／ないか」を決める権利があるはず…。

毎年11月には、女性に対する暴力撤廃の国際デーと、啓発週間があります。

「女性に対する暴力」は、社会のあらゆる場所で、さまざまな形で起こっていますが、「女性の身体に勝手に性的な意味づけをする」のは、そうした暴力のなかでももっとも身近なものの1つかもしれません。

つつい軽いジョークのつもりの発言や行動のなかにも、実は性暴力の種が潜んでいることを、あらためて1人ひとりが考えていく必要があるのではないのでしょうか。



伊藤まり（パレットーク副編集長）

1993年東京生まれ。早稲田大学卒業。編集ライター。大学在学中よりフェミニズム活動に参加し、署名活動やパフォーマンス、レクチャーなどを行う。ウェブメディア「パレットーク」副編集長をつとめる傍ら、ジェンダーやフェミニズムに関しての執筆や講演を行う。



BOOKS



2021年11月発行
(訳) 岡本早織
(出版社) 創元社

review

インターンシップ生
井田有哉

『ルース・B・ギンズバーグ名言集—新しい時、新しい日がやってくる』

ノートリアス(あの有名な)RBG。彼女はそう呼ばれました。この本はアメリカで史上2人目の女性最高裁判事であり、一人の人間として、女性として、母として、国内の差別解消に生涯をかけて挑んだルース・B・ギンズバーグの名言集です。

彼女は、この本の中で私たちに未来への示唆を与えてくれています。女性差別が続いた時代を生きた彼女は、女性だけではなく今もなお差別にさらされているマイノリティを勇気づける、未来へ希望を持たせる言葉を残しました。

「人生においては、たびたび、障壁だと思っていたことが素晴らしい幸運に転じることもあります。」
「自分にとって大切なことのために闘ってください。」

ただし、他の人が仲間に加わりたと思うようなやり方で。」

これらの言葉はほんの一部でしかありません。数々の冷静な名言に隠された平等に対する熱い想いや意見を異にする他者であっても尊重する姿勢に一度触れてみて欲しいと思います。

彼女の人の柄や気概、未来を展望する生き方は、社会を良くしたい、自分の夢を実現したいと、将来について考えるあらゆる人が参考にしたい良いものだと思います。最後に、本書の副題にもなっている彼女の言葉を引用しておきます。「新しい時、新しい日がやってきます。」この言葉の背景にある彼女の想いに耳を傾けてみませんか。



2021年12月発行
(著者) 野村浩子
(出版社) 日本経済新聞出版

review

インターンシップ生
佐藤瑞菜

『異なる人と「対話」する 本気のダイバーシティ経営』

自分とは異なる人とどのように接すればお互いに働きやすくなるのでしょうか?どうすればお互いの良さを活かしてプラスの影響を組織にもたらすことができるのでしょうか?

本書は企業の管理職と、働きにくさを感じるあらゆるマイノリティに向けて書かれており、このような疑問へのヒントを得ることができる本です。企業で働いていない人にとっても、自分と異なる他者と一緒に行動する際に役立つ内容です。

子育て社員、シニア社員、外国籍社員、職場初めの女性社員、障がいを持つ社員、性的マイノリティ社

員といった多様な社員とその上司や経営層が登場し「対話」を通じて組織に良い変化をもたらした事例が出てきます。終章では多様性社会の実現に寄与した3人の偉人が紹介され、現代のみならず過去からも学ぶことができます。

しかし、筆者も課題としてあげていることですが、本書で触れられている社員は正社員が主であり、非正規社員はあまり触れられていません。非正規というマイノリティ、あるいは力が弱い立場に立たされる人々も含んだダイバーシティ&インクルージョンの実現について考えていくことも必要となるでしょう。



2019年6月発行
(著者) ブレイディみかこ
(出版社) 新潮社

review

インターンシップ生
木村紅理

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』

英国に暮らす著者と中学生の息子が、学園生活や身の回りの出来事を通して自分のアイデンティティに向き合ってたくましく生きる過程を綴ったエッセイ。息子は日々人種差別を目の当たりにしたりジェンダーやセクシュアリティの問題に直面したりと、世界が抱える困難にぶち当たりますが、その度に著者や周りの人との対話を通して一回り成長していきます。

その成長を支える軸になっているのが「エンパシー」。英国では、将来社会をより良くする積極的な人材の育成のため、シティズンシップ教育(市民教育もしくは主催者教育)というカリキュラムを置

いています。その授業の中で「エンパシーとは、『自分で誰かの靴を履いてみること』」と習います。エンパシーは、単に共感や同情といった心理的作用ではなく、主体的に自分とは異なる人に思いをはせる能力のことであり、人々の抱える困難を解消するための第一歩となるはずで

様々な問題の中でもがきながらもエンパシーを実践していくこのお話は、決して私たちの生活から遠いものではありません。多様性の中でどのように行動するか、どのように「当たり前」を生きるか、全ての人が考えさせられる一冊です。



パパだから分担できること

4歳と1歳の娘がとりあえず元気に育ってくれてるD/パパです。産後パパ育休が施行となり、家族と新しい向き合い方をしていくパパが増えるだろうことについてうれしく思っています。育休をとるとなったら（とらなくても）、出てくるのが育児・家事分担をどうするか。D/パパ家のある時期の分担を図示します。



【我が家の分担例】

		…パパ	…ママ	…両方
洗濯	食事補助	おもちゃ整理	食材買い物	
洗濯ものを畳んでしまう	離乳食づくり	保育園送り	園の呼出し対応	
風呂掃除	食事作り	保育園お迎え	夜泣き対応	
子どものお風呂	皿洗い	ゴミ出し	保育園準備	
寝かしつけ	掃除	予防接種・検診予約	遊び相手	

どうでしょうか。パパの分量多く映るでしょうか。少ないでしょうか。いやいや、数じゃないよ、ひとつひとつ負担感違うもん。そうですね。何をやったからOK、どれだけやっているからOKじゃないし、また、あまりにキッチリ分けすぎて分担で決めた以外のものは手を出さない、とかなったら本末転倒です。でも、目安として一回整理してみるには良いと思います。

ある日、ママが日中いない日がありました。ワンオペです。腕の見せ所です。さあご飯食べさせたらテレビ見せつつ食器洗って掃除してゴロンとしようかな。まず出だし、ご飯食べてくれません。抱っこをせがんできます。おやおや。お昼を食べたらおなか一杯になって寝てくれるはず。寝てくれません。でも眠いのかグズります。抱っこしているのに暴れます。熱を測ってみると微妙なライン。明日は月曜日、発熱したら仕事どうしよう。喋ってくれればもっと早く分かったかも。ママだったらすぐ分かったかな。そういえばこの前の健診で発語が少ないとか言われていたっけ。うちの子、他

の子と比べて遅いのか。やっと夕方帰ってきた妻に報告し、ああかもこうかもと話しました。タスクは全然進まなかったけど、不思議と少しモヤモヤは晴れました。

少し大げさに書きましたが、名前付きで分担表にリストアップされない「不安」「心配」って、一人で負うには負担感が相当高いんですね。手を動かせば済むというものでもないし、解決策を提示されたらその瞬間に終わるというものでもない。報告を受けての「そうなんだ」じゃなくて、同じ立ち位置で「そうだよ」と話ができる、そんな相手が身近にただで負担感は半分以下になります。

その為にパパができること。一番分かりやすいのは、目に見えるタスクを分担して同じ目線の高さ・同じ歩調で家事育児をしていく時間を確保し続けていくことかな、と。育休期間なんて、育児全体でいったら本当に一瞬です。その後の長い、でも貴重な日々をどう乗り越えていくか。育休期間を作戦会議の時間にできると、有効に使えそうじゃないでしょうか。

“イキメン”とは、「家庭でも地域でもイキイキと過ごすパパ」のこと。

すくらむ 21 では、男性を対象とした事業を「イキメン研究所」として、男性が地域に目を向ける契機（第一子誕生）ととらえて事業を行っています。2013（平成 25）年度発足して 9 年目を迎えます。



◀ イキメン研究所の
活動紹介は
こちらから



◀ 女性の視点でつくるかわさき防災
プロジェクト（通称：JKB）との
コラボ企画はこちら

イキメン
メンバー
募集中



インターンシップ生 コラボ企画

インターンシップ生が、川崎で活躍する女性起業家にお話を伺いました

すくらむ 21 で実施している起業家無料相談会や起業プラン作成支援講座の修了生である sweets & link 代表の関根夏子(せきね・なつこ)さんにインタビューのご協力をいただきました。現在は麻生区の農園パティスリー「slow sweets」のシェフをしながら、店舗の商品開発や新店舗立ち上げなど、お客様に寄り添うスイーツコンサルタントとして活動されています。パティシエを選んだ理由やパティシエとして働いた会社員時代のお話、起業のきっかけ、これから取り組みたいことなどお話を伺いました。

インターンシップ生からは、「自分の好きなことを大切にしながら、周りの人のための仕事をする、という信念を持っていきたい」「挑戦してみる事、一生懸命に取り組んでみる事、自分が感じたことや考えたことを信じる事、それが大切なのだと感じました」「就職活動で直面する壁にも立ち向かう自信ができました」などの感想があり、今後のキャリアについて深く考える機会になったようです。

インタビューの詳細は、すくらむ 21 ホームページにて公開中です。ぜひご覧ください。

こちらの QR コードからインタビュー記事を CHECK !



フリーランスで働く女性のためのトラブル回避講座

フリーランスで働く女性が安心して働ける環境を作るために、契約、報酬、ハラスメント、著作権など仕事を引き受ける上で知っておきたい重要なポイントを学びます。

令和 5 (2023) 年

2/18 (土)

13:30 ~ 15:30

会場：川崎市男女共同参画センター（すくらむ 21）

対 象：川崎市内在住・在勤・在学の女性

定 員：24 名

参 加 費：無料

詳細は今後すくらむ21ホームページに随時アップしていきます。



かわさきの男女共同参画情報誌

すくらむ

発行年月
編集・発行
所在地

ホームページ
電 話
F A X

令和4(2022)年11月
川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）
〒213-0001
川崎市高津区溝口2丁目20番1号
<https://www.scrum21.or.jp/>
044-813-0808
044-813-0864



植物油インキ（植物油、または植物油を原料としたエステルを一定の割合以上含まれたインキ（インク））を使用しています。